

西光寺(宝町)

東京都葛飾区宝町

元仁元年(1224)創立。西光坊善慶(葛西清重)の草庵が始まりとされ、親鸞聖人が渋江村(現四つ木)の草庵に立ち寄ったところ、長雨により53日間逗留することになり、その間この寺の住職が阿弥陀如来の画像を描いてほしいと親鸞聖人に願い出たため、阿弥陀如来を描き与えたといわれている。

戦前まで、毎年4月に浅草方面から多くの門信徒が集い、報恩講が勤められていたという。現在は真言宗豊山派。



西光寺(宝町)本堂

西光寺(宝町)・袈裟掛けの松

寺の裏にある松は「十六松」と呼ばれ、親鸞聖人が立ち寄った際に、松は「十八公」に通じ、更に阿弥陀の十八願にあやかり、千有余年の間も我が弘法とともに繁栄するようにとの願いをこめて袈裟を掛けたといわれている。現在の樹は3代目で、根本には由来を記した碑が建てられている。



西光寺(宝町)袈裟掛けの松